

単一素材プラスチックの 国内リサイクル事業を開始

埼玉県所沢市

所沢市は2019年4月から、各家庭から排出されるポリバケツやポリタンク、衣装ケースなどの単一素材プラスチック（以下、単一素材プラ）の国内での資源化事業を開始した。

2019年4～7月の4カ月間で約10・46tが資源化されており、1カ月に約2・6t、年間で約31tの資源化を見込んでいる。

同事業は、㈱エコロ（埼玉県富士見市）に業務委託するかたちで行い、市民から排出されたごみのうち、市の職員が資源化可能な単一素材プラを精査、分別し、㈱エコロに引き渡している。

同市では、びん・缶、スプレー缶、PETボトルはそれぞれ月に2回、容器包装プラスチックは週に1回分別収集を行っている。汚れが残っていたり資源化できなかったりする容器包装プラスチックやPETボトル、またポリバケツや衣装ケースなどの単一素材プラは、破碎ごみ（不燃ごみ）として月に2回収集して

いる。

通常の収集とは別に、市内にある公民館など全25拠点で単一素材プラの拠点回収も行っている。

持ち込み回収を受け付けている東部クリーンセンターと西部のクリーンセンターや、資源物回収を行っている東所沢エコステーションに市民が直接持ち込む場合も多いという。

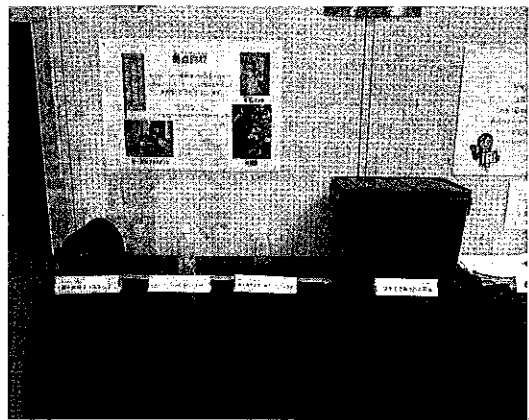
引き渡し方法としては、①東所沢エコステーションに集められた単一素材プラのうち資源化できるものを市の職員が精査、分別した上で、㈱エコロの中間処理施設まで運搬する②東部クリーンセンターと西部のクリーンセンターに集められたごみのうち、資源化可能な単一素材プラを市の職員が精査、分別。㈱エコロが東西それぞれのクリーンセンターまで直接回収する方法がある。

なお、衣装ケースはクローゼットや押入れの中で使用することが多いためか、汚れや傷などがほとんどないものも多く、

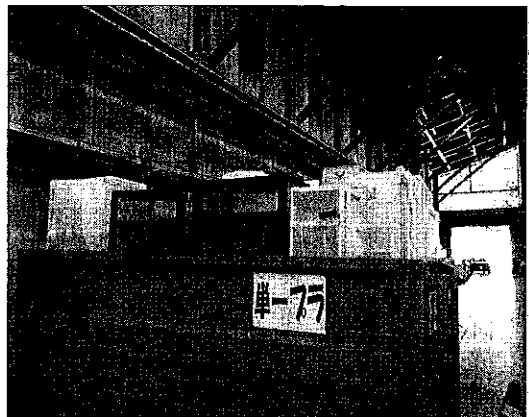
つ減り、2018年度からは不純物が多く、質が悪いということで、重量の大きいカセットテープやビデオテープが資源化できなくなった。

2017年12月から、中国や東南アジアで廃プラスチックの輸入規制が始まり、無料で引き取った場合でも利益が出ないということ、2018年には業者から事業撤退の申し出があったという。

単一素材プラの売払単価は、2012年度に4円/kgだったものが、2016年度には0・5円/kgにまで下落した。



単一素材プラのリサイクル工程の展示



リサイクルとして回収される単一素材プラ



まだ新しい単一素材プラは販売している

所沢市では、こうした状況を受け、㈱エコロと新たに業務提携を結び、海外リサイクルから国内リサイクル業務に舵をきった。

㈱エコロの後藤雅晴社長は、「人口約5・5万人の羽村市と比べて、約6倍となる人口約34万人の所沢市では、一人当たりの資源化できる単一素材プラの回収量が少ない。パッカー車で収集された場合、市民が直接持ち込んだものに比べると、破損が激しく資源化が難しくなる。市民のリサイクルに対する意識が高まっ

新品同様のものはリサイクルふれあい館でリユース品として販売しているという。資源化が難しいプラスチックについては、その大半が破碎焼却後、埋立処理となるが、同市内にある最終処分場が2005年末に埋立終了となったことから、現在は埼玉県内の寄居、群馬県の草津や山形県の米沢の最終処分場で埋立処分を行っている。

なお、一般廃棄物については「自区内処理」が原則とされていることから、市では新たな最終処分場の整備を計画中だという。

単一素材に限定しない製品プラスチックごみの資源化事業は、2009年6月から取り組んでいた。

2012年度からは海外輸出を手掛ける業者と業務委託を結び、年間で61・68tが回収されていたが、2018年度には36tにまで大きく落ち込んだ。

2017年度には中国でのプラスチック市況の下落を受けて回収量がすこしずつ

ていけば、資源化可能な単一素材プラの回収量も増えると考えている。まだ伸びしろはある」と話した。

またリサイクルふれあい館の金子敦館長は、「市民のごみ削減と資源化に対する意識向上の取り組みを強化し、民間と自治体が協力してごみの削減と資源化をすすめていきたい」と語った。W

（本誌・松本）